



大阪スカウトクラブ

大阪スカウト会館

大阪市天王寺区大道5-4-6

代表 谷口 修

### サロン・ド・フィールド

## 世界文化遺産「百舌鳥・古市古墳群」を訪ねて

[仁徳天皇陵散策ウォーキング]

令和元年6月9日（土）  
参加者数 30名



今年4月6日のサロン・ド・OSCにおいて「百舌鳥・古市古墳群の世界遺産登録について」というテーマで、大阪府文化財保護課の福田英人氏を招き、古墳群の文化的価値について、また世界文化遺産登録について講演をしていただいた。

今回のサロン・ド・フィールドは、その講演内容の理解をさらに深めようという趣旨のため計画された一連のプログラムであった。

4月6日のサロン・ド・OSCが開催された時点では、イコモス（国際記念物遺産会議）の現地調査が終わり、「世界文化遺産登録」として勧告するのを待っている段階であった。そして5月13日にイコモスの勧告があり、世界文化遺産登録が確実となった段階での、サロン・ド・フィールドの実施となったことは絶妙のタイミングであった。

今回も福田氏に案内と説明をお願いしたが、イコモスの勧告後は世界文化遺産登録推進本部事務局へ全国各地より問い合わせが殺到し、その対応に繁忙を極める状態とのことで、今回は事前に日程調整ができていたため案内が可能だったとのこと。

今回は百舌鳥・古市古墳群の百舌鳥エリアを散策した。

百舌鳥古墳群は4世紀末から5世紀後半にかけて100基以上の古墳が築造されたことであったが、戦後の宅地造成等により破壊され続けたのであるが、住民運動等によって宅地造成計画が中止された古墳もあり、現在は44基が保存されている。

当日前午11時JR百舌鳥駅前に集合し、その近くの収塚（おさめづか）古墳に移動して、福田氏の紹介と本日の見学コースの説明がおこなわれ、仁徳天皇陵古墳に向かった。仁徳天皇陵古墳拝所においてボランティアの方の説明があり仁徳天皇陵古墳の広大さを実感した。

仁徳天皇陵古墳は百舌鳥エリアの中央部に位置する前方後円墳で日本最大の古墳であり、エジプトのクフ王ピラミッド、中国の秦の始皇帝陵と並ぶ世界三大墳墓のひとつと言われている。

また仁徳天皇陵古墳の濠の周囲には多数の古墳が近接して位置している。



仁徳天皇陵古墳拝所前



仁徳天皇陵古墳案内板

仁徳天皇陵古墳に隣接する大仙公園内の堺市博物館へ。

博物館では、案内をお願いした福田氏が事前に手配していただき、博物館学芸員の増田氏より展示物等丁寧に説明していただいたのであるが、自己紹介された時に、もと南東地区大阪53団のスカウトであったとのこと、素晴らしい出会いに感謝である。



堺市博物館前にて



博物館内見学

博物館見学後「履中（りちゅう）天皇陵古墳」へ。この古墳は仁徳天皇陵古墳の南西に位置し、日本で3番目の大きさである。そしてその東にある「いたすけ古墳」へ。



履中天皇陵古墳



いたすけ古墳

百舌鳥駅に戻って一旦解散し、二次会に参加するメンバーのみで、隣の三国ヶ丘駅で下車し、駅上の展望台より仁徳天皇陵古墳を眺めるも、古墳という実体はあまり感じられない、ということで一行は堺市役所最上階の展望階へ移動。そこから見下ろすとやはり仁徳天皇陵古墳の広大さを感じることが出来る。

また昔の海岸線がどのあたりにあったのかを考えたとき、恐らくその時代に海から陸を眺めれば、翠に輝く石で敷き詰められ、朱い埴輪でかたどられたその古墳の壮大さに目を奪われたことは想像に難くない。

## 令和元年度 日本連盟 全国大会

**日時：令和元年5月25日（土）～26日（日）**

**場所：鹿児島県鹿児島市民文化ホール・鹿児島サンロイヤルホテル**

第15回目の開催となる日本連盟全国大会は上記日程で鹿児島県連盟ほか九州・沖縄ブロックの各県連盟の協力により、盛大に実施された。

参加者総数741名、大阪スカウトクラブからは谷口会長の他7名が参加した。

大阪スカウトクラブに於いては、現在谷口会長の他に5名の会員（瀬濤氏、膳師氏、日上氏、間下氏、村田氏）が日本連盟の役員として活動されている。

今回、村田氏より全国会議に参加された印象を寄稿いただいた。

### ■ 全国大会を意味のあるものに 村田 紘一 ■

懐かしさで胸一杯に鹿児島空港に降りたって、バスで市街地に近づくにつれ、何か懐かしさが胸にあふれ声も出ません。というのも昭和37年、高校2年生の秋、高校の修学旅行で西鹿児島駅に降り立ったことを思い出したからです。今は鹿児島中央駅として近代的な駅舎になっていますが、当時は、鹿児島本線といつても単線で、長時間汽車にゆられ煤で真っ黒、地の果てにきたようでした。

飛行機もバスも順調に鹿児島入りをして、JRバスの市内観光に参加しました。まずは、城山です。60年近く前は西郷さんにそっくりのおじさんが解説してくれましたが、今回はガイドさんです。明治維新時の政府と不平士族の不満について考えさせられました。

この観光バスのメリットは、バスに乗ったまま、フェリーに乗せられ、桜島の中腹まで登れることです。錦江湾の景色もさることながら、噴火のものすごさと、その後に生えた松など自然の治癒力に感心させられました。

その後、今は仙巖園といわれる薩摩藩の別邸へ。桜島を借景としたすばらしい庭園でした。その夜は、全参加者で天文館通りで懇親を深め、翌日から全国大会組と女性陣の島原半島組と分かれて行動しましたが、この二泊三日、参加者一同、西郷隆盛、大久保利通等、明治維新の登場人物の故郷を中心まで楽しませてもらいました。

全国会議か、全国大会か大論争がもう何年になりますか、かつて全国会議は、全国から団の代表者が招集され、日本連盟の提案事項を審議し、時に否決することもありました。それに懲りたのか、日本連盟は評議員制度をひき全国大会としました。日本連盟の方針等は評議員会で審議、決定することとなったのです。最後の全国会議の場で、私も反対意見を述べましたが、僅差で全国会議は廃止されました。スカウト運動に携わっている構成員自体が、スカウト運動を自分が担っているのだ、スカウトに対して責任を負っているのだという意識が薄れてしまってはいないかと心配します。全国会議の場で参加者に考える機会を、今私の関わっている「中途退団抑止特別委員会」では、次世代につなげるスカウト運動セミナーを開催するとともに、全国から集まってこられている指導者に、昨今のスカウト数の減少について何かできることはできないかというブースを開設しました。中途退団抑止力チェックシートを作成し、地域社会との連携やコミュニケーション等の項目ができていればシールを貼るようにし、参会者に取り組んでもらいました。ボーイスカウトに入ると100のよいことがあるとして、どんなことがあるか記入もしてもらいました。今、スカウト運動は危機的な状況にあります。ありとあらゆる手をつくしてスカウト数の減少にブレーキをかけていきましょう。



鹿児島市民文化ホール前にて



桜島・湯之平展望所にて

## — サロン・ド・OSC —

○7月6日（土）ゲスト「山本和俊氏」参加 16名

### テーマ「シニア自然大学校からのメッセージ」

定年退職後  
またその後再  
就職しての2  
回目の定年を  
迎えた方々に  
とって、第二、  
第三の人生の  
過ごし方、樂  
しみ方を模索  
しておられる方



も多いのではないだろうか。今回はそのようなシニア年代を対象に、自然に親しむ講座等を開講されている「NPO法人シニア自然大学校」についてその活動内容等を元三島地区の山本和俊氏より紹介していただいた。山本和俊氏はシニア自然大学校に長く関与され、そこで学ばれたことを活かして、地域活動に貢献されており、ボーイスカウトやシニア自然大学校、その他の団体と協働、連携し子ども自然体験活動事業を開始され、そのサポートをされている。このシニア自然大学校は自分の目的や自分に合った方法で、自然について広く学び、野外観察や野外活動を楽しむことが出来るようなカリキュラムとなっている。シニア自然大学校では、自然に親しむ講座として1年間の学習がスタートする。そこから「楽しく学ぶこと」や「新たな友との出会い」を得ることが出来ること。今一度、今までの自分を見つめなおし、新しい生きがいを見つけることもよいのではないだろうか。

「この年になって何を今更・・・」と思われる先輩諸氏も多いと思われるが「人生100年計画」と言われる昨今である。「今更」ではなくて「これから・・・」を、もう一度考えてみることもいいのでは。

○9月7日（土）ゲスト「布上芳信氏」参加 12名

### テーマ「書に学ぶ」－日常生活の楽しみ方－

文字（漢字、ひらがな）  
を書くというのは、余白部分  
をいかにバランスよく配していく  
かが大事なことである。

今回、参加者全員が今までに一番慣れ親しんでいる漢字、つまり自分の名前を書くことからスタートした。最初は今まで書いているままに清書し、次に先生の助言によりバランスを考えながら書いていくことによって、今まで何気なく書いていた自分の名前もうまく書けるようになった。



漢字を書くときには一文字の漢字がもつ余白部分のバランスを考えながら、書いていくと、今より以上に整った漢字が書けるのではないかと感じた次第である。

また漢字がうまく書けない、変な形だと思われる方は、きっと筆順が間違っているのではないだろうか。正しい筆順で書くことは大事なことである。今回先生より下記の宿題が参加者に配布された。みなさんはきっとご存知でしょうが、参考までに!!



今回文字を書く上で、余白部分の活用とバランスというお話であったが、それは私達の生活にも相通じるものがあるとのお話であった。

普段私達は有意義な時間を過ごしたいと思って生活しているのであるが、そのためには、それ以外に費やす時間も必要なのではないか。人生楽しいばかりではだめ、苦労や辛さがあって、初めて楽しい人生と言えるのではないだろうか。

自分では無駄と思う時間があってこそ、有意義な時間を実感することが出来るのではないか。それが生活の余白の時間の活用ということである。

### 今後の予定

10月20日（日）サロン・ド・フィールド  
「キャンプおおさかを知る」

11月2日（土）ふくろうわーるど

12月7日（土）サロン・ド・OSC  
「花を楽しむ」

令和2年

2月8日（土）サロン・ド・OSC「B-P祭」

3月7日（土）サロン・ド・OSC

「与謝野晶子を語る」

令和2年2月のサロン・ド・OSC(B-P祭)は当初は2月1日に予定しておりましたが、都合により2月8日とさせていただきます。